

どこさ行く? まっちゃ行く! MACHI UP PRESS!

# まっちゃPRESS



## まちなかを考える machicafe

まちなかりポート  
空き店舗が目立つようになってきた遠野のまちなか。そんなまちなかでこだわりを持って頑張っている人たちがいる。今回インタビューしたのは、JR遠野駅の北側の通りで民宿を営んでいる佐々木要太郎さん。その目に映る遠野について聞いた。

―― 佐々木さんが手がける「どぶろく」は、とても美味しいと評判で全国にファンがいるようですが、まず「どぶろく」について教えてください。

**佐々木さん** 遠野市がどぶろく特区を取得したことをきっかけに、私は平成17年からどぶろくの製造を開始しました。今の味は、当初の味からかなり改良しています。盛岡の高校を卒業し、遠野に戻ってきたものの視野を広げるために全国を旅したのですが、その経験、感覚が、どぶろくの味に反映されていると感じています。実は「どぶろく」をすでに海外展開しておりスペイン、香港、シンガポールで販売しています。海外展開のきっかけは、東京の飲食店で飲んだ方が気に入り、海外展開の話を持ち込んでくれたという経緯があります。これからも探求し続け「どぶろく」を極めたいと思っています。

―― それでは次に、こだわりの宿「とおの屋 要(よう)」について教えてください。

**佐々木さん** おとの屋 要(よう)は「時を食して頂く」をコンセプトに手作りの発酵食品を食べただけの宿です。発酵食品に興味を持ったきっかけは「どぶろく」でした。今ではチーズやプロシュット(生ハム)も自分で作っています。試行錯誤を繰り返して納得のいく味を模索するというプロセスを今も繰り返しています。宿の内装、外装にもこだわりを持っています。やはり「視覚」から入ることは商売をするうえで重要だと思っています。「カッコいい」と「ダサい」の違いはとても大きな違いだと思います。

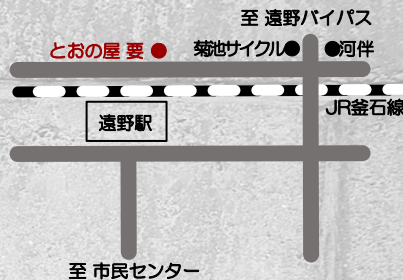
―― こだわりの「どぶろく」「宿」を手がけている佐々木さんだからこそ、遠野への思いも強いと思います。遠野への思いをお聞かせください。

**佐々木さん** 遠野は、遠野物語に頼りすぎなのではと感じることがあります。遠野物語に頼るにしても、もっと広く柔軟に生かしているのではと思いますね。遠野に行けば〇〇があるといった、強いコンテンツが必要です。自分としては遠野を「発酵のまち」にしたいと考えています。それも全国に通用するトップレベルのクオリティを求めるつもりです。

かつて柳田國男氏が遠野を訪れた際、まち場の活気ある様子を見て、馬千匹、千人の賑わいと『遠野物語』に記しました。どこさ行く? まっちゃ行く! そんな掛け声が飛び交い賑わつ中心市街地の活性化を目指すとともに、遠野駅舎の情報を発信します。



**遠野屋 要(よう)**  
住所/遠野市材木町2-14  
HP/<http://toonoya-you.com/>  
電話/0198-62-7557



―― 若手の筆頭といえる佐々木さんから同年代、若者世代への思いを教えてください。

**佐々木さん** ぜひ意識のある人たちと交流する機会を増やしてほしいと思います。私のように家業を継いで遠野を離れられない人もいるので、個々がプレイヤーとしてのレベルアップを図らなければいけないと思います。遠野の良い部分と新しい感性を融合できる若手がどんどん増えていく環境が整ってほしいですね。

―― 最後に遠野駅舎への思いをお聞かせください。

**佐々木さん** 今の遠野駅舎の良さを残せるようなリノベーションの方法を検討してほしいと思いますね。保存でも新築でも遠野駅舎の利活用を考える場合、大切なことは「ストーリー性」だと思います。遠野らしさ、遠野の強みを生かす必要があると思います。遠野駅舎の議論にも参加したいですし、遠野駅舎に携わる機会をぜひいただきたいと思います。活用方法としては、リーズナブルなホテル、センスのいいカフェやバル、高校生や若い女性が集える空間といった遠野にはまだ少ないタイプのお店として活用できるととても魅力的だと思います。そして「食」というキーワードから遠野を変える拠点となってほしいですね。

【佐々木 要太郎さん(ささき ようたろう)】

「とおの屋 民宿とおの」の2代目。平成17年から「どぶろく」の醸造を開始。平成22年からは、民宿の隣に「時を食して頂く」をコンセプトとしたこだわりの宿「とおの屋 要(よう)」を設け、どぶろくをはじめ、チーズやプロシュット(生ハム)などの手作りの発酵食品が食べられる宿として人気を博している。要太郎さんが造るどぶろくは市内だけでなく市外でも評判で、すでに海外展開も手がけている。今後は発酵食品の事業拡大を予定しており、遠野の新たな特産品開発に力を入れている。



発行・編集/遠野駅舎の未来を考える会事務局(遠野市まちづくり再生担当) 電話0198-62-2111

やっぱり遠野は良いねと言えるまち  
子どもたちに自慢できる中心市街地  
そんなまちづくりを共に目指します  
-遠野駅舎の未来を考える会-

